



2018年5月9日

各 位

会社名 兼松株式会社
代表者 代表取締役社長 谷川 薫
(コード番号 8020 東証1部)
問合せ先 財務部長 海野 太郎
(電話番号 03-5440-8000)

中期ビジョン「*future 135*」の策定について

当社は、2014年5月に、次なるステージに向けた成長シナリオとしての5カ年中期ビジョン「VISION-130」を発表し、以降、その目標の具現化に向け各種施策を着実に実行して参りました。

今般、前2018年3月期をもってその目標を1年前倒しで概ね達成したことから、今後のさらなる成長軌道を念頭に、当社創業135周年にあたる2024年までの6カ年中期ビジョン「*future 135*」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

◆ VISION-130の総括

VISION-130は、2019年3月期を最終年度とし、「健全な財務体質の維持」と「収益基盤の拡大」を経営目標として掲げて参りました。

収益目標としての連結当期純利益150億円は、1年前倒しの2018年3月期で達成し、効率指標としてのROEも15%の水準となりました。自己資本は、年度後半の株安や円高の影響もありましたが、目標レベルに向け順調に積み上がっており、ネットDERは0.5倍の水準にあります。

株主還元に関する基本的な考え方としては、連結配当性向25%を目処とし、安定的かつ継続的な配当実施を明示、2014年3月期以降、安定的に配当を継続して参りました。2018年3月期においては年間48円の配当を予定しております。

	VISION-130 目標	2018年3月期実績
連結当期純利益	150億円	163億円
ROE	12.0%	15.1%
自己資本	1,200億円超	1,160億円
ネットDER	1.0倍未満	0.5倍
連結配当性向	25%を目処として	24.8%

(注) 連結当期純利益は、親会社の所有者に帰属する当期純利益

◆ future 135の概要

《骨子》

- 兼松グループが有する強い事業をさらに伸ばし、かつ安定した収益基盤の事業分野において持続的成長を実現して参ります。効果的な事業投資により規模の拡大や付加価値の獲得を追求し、連結当期純利益 250 億円を目標といたします。
- 収益構造・財務構造の安定性を背景に、配当性向（総還元性向）は 25～30%とし、資本の効率性を重視した経営を推進いたします。
- 期間は 2019 年 3 月期から 2024 年 3 月期までの 6 ヶ年といたします。

《定量目標(最終年度 2024 年3月期)》

連結当期純利益	250 億円
ROE	13% ～ 15%
総還元性向	25% ～ 30%

《重点施策》

- 基盤となる事業における持続的成長と、事業投資による規模拡大
 - 安定した収益構造を維持し、持続的成長を実現
 - 安定した財務構造を活かし、資本とリスクアセットのバランスを取りつつ事業投資を実行
 - 事業投資は、強みを有する事業分野で、「規模拡大」型と「付加価値」型の 2 軸で推進
- 技術革新への対応
 - 先進技術（IoT/AI など）を軸とした新規事業の推進と拡大（「イノベーション投資」型）
- 持続的成長を実現するための経営インフラ確立
 - グローバル戦略に対応する体制づくり
 - 経営人材の育成
 - 従業員満足度（ES）の向上

※個別の施策や計画数値については、当社を取り巻く環境変化のスピードに合わせ、単年度の業務計画をもって進めて参ります。なお、折り返しとなる 3 年後の時点で、事業投資の進捗なども踏まえて方向性を再確認する予定です。

以 上

*業績予想に関する留意事項

本資料に記載されている業績予想ならびに将来に関する記述は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報および合理的な仮定に基づいた推測を前提としております。したがって、実際の業績は様々な要因により本資料に記載されたものと大きく異なる結果となる可能性があることにご留意ください。